

9月定例教育委員会 会議録		
日 時	令和8年9月16日（水） 午後3時00分～午後4時15分	
場 所	本庁舎 9階 会議室9－2	
出席委員	松田教育長・末木職務代理人・上原委員・川口委員・岩下委員	
出席事務局職員	里吉教育部長・近藤教育総室長（総務課長兼任）・西村生涯学習室長（歴史文化財課長兼任）・大森学校教育課長・中村学事課長・穂山教育施設課長・花輪甲府商業高等学校事務長・浅川甲府商科専門学校事務長・樋田生涯学習課長・武田スポーツ課長・上條国スポ総体課長・海瀬図書館長・菱山総務課課長補佐・内田総務課係長・舟久保総務課主任	
傍 聴 人	なし	
署名委員		
委員会書記		
・教育委員あいさつ		
・会議録署名委員の氏名 上原委員		
・8月定例会・臨時会会議録の承認 原案のとおり承認		
松田 川口 岩下 末木 上原		
1 開会 松田教育長 これより9月定例教育委員会を開会いたします。 (1) 教育委員あいさつ 上原委員 皆様こんにちは。秋の訪れを感じる頃となりました。 先日、ふじでんスタジアムにて第77回甲府市民体育大会の開会式に参列いたしました。 雨を心配する曇り空ではありましたが、地区を代表したペアの選手宣誓では、はつらつとした立ち振る舞いと息の合った声が響き、清々しい気持ちになりました。 開会前のレクリエーションダンスは一体感の中にも和気藹々とした雰囲気に包まれました。 様々な種目のスポーツ競技を通じて市民の交流が深まり、心地良いつながりを築いていけることは、この地域の豊かさであるとうれしく感じました。 さて、新学期が始まり子どもたちは日焼けした顔で元気に登校をスタートしたのでしょうか。 長い夏休み明けは子どもたちにとって、学校で友達と会えるわくわく感のある子、一方でまだこのまま休んでいたいと足の重たい子もいると思います。 国では9月10日から16日までを「自殺予防週間」と定めています。		

そして厚生労働大臣ら3人の大臣からのメッセージが発信されています。

一人で心や身体の不安、不調を抱え込まないよう、身近の人に話すよう促し、もし言い出せない場合は匿名でも相談できる電話やSNS等の窓口があると紹介しています。そしていつもと違う様子の誰かを見かけたら声をかけることも伝えています。

それほど近年では悩み苦しんでいる人が多く、特に日本の小中学生だけでも年間538人自殺者が記録され、若い尊い命を失っています。

子どもたちは未熟ながらも一人一人独自の魅力を持ち、無限の可能性を秘めた存在であることを認識すればするほど心が痛み、胸が塞がれる思いです。

私は先日、図書館で「学校を休んだ日は本を開いて」というタイトルの一冊を借りて読みました。学校に行けないことに苦しんで命を絶つ子がいることを知り、そこまで子どもたちを追いつめ込むものをどう捉えればいいのか、私たち大人はそのことに気づき、一刻も早くその解決策を考えていかなければと思います。

しかし、子どもたちだけの問題ではなく、昨今では精神疾患や離職という疲弊した大人たちもいます。教員においては、保護者対応や学校現場の業務負担の増大からメンタルヘルス対策の充実も急務です。教員の精神状態が良いことは児童生徒の心の安定にもつながります。

この本では子ども時代に学校が苦手だった大人たちが、現在は小説家や芸人、オリンピック選手となって社会に出ていることに触れています。

学校に行けないから人生が終わりではないこと、いろんな回り道があることを証明しているかのようです。

そしてそんな大人たちが当時苦悩の中でもそばに置いて読んでいた本について語っています。本を読むことですぐに何かが解決したわけではありませんが、どの人にも共通して言えることは、本を通じて気づきを得ていることです。

子どもから大人まで本の世界は、限りなく視野を広げ、想像力を生み出してくれます。想像できることは希望につながることを伝えたいと思います。

子どもは居場所を選べないことに苦しみます。しかし、今いる場所が苦しくてもここではないどこかがあるということ、いつか自分らしくいられる場所に必ずたどり着けると思わせてくれることを本は示唆してくれているのです。

自分の殻に閉じこもり、誰にも声が出せないとき、心に届く本との出会いがありますように、そして生きる支えの一つとなることを願います。

(2) 会議録署名委員の指名

松田教育長

本日の会議録署名委員は、上原委員にお願いいたします。

(3) 前回会議録の承認

松田教育長

8月12日の定例教育委員会の会議録について、何かご意見、ご質問はありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

【原案どおり承認】

(教育委員会承認)

2 議事

(1) 議題

松田教育長

第23号 甲府市立甲府商科専門学校学則の一部改正について

資料に基づきまして、浅川甲府商科専門学校事務長から、説明をお願いします。

(浅川甲府商科専門学校事務長から資料に沿って説明)

松田教育長

説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。

ご意見、ご質問はありますか。

よろしいでしょうか。

それでは、原案のとおり決定ということでよろしいでしょうか。

【原案のとおり決定】

(教育委員会決定)

(2) 報告

松田教育長

第11号 令和8年度教育委員会総合教育視察結果の集約について

資料に基づきまして、大森学校教育課長から説明をお願いします。

(大森学校教育課長から資料に沿って説明)

松田教育長

説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。

ご意見、ご質問はありますか。

岩下委員

今回の総合教育視察では、学校現場で子どもたちが真剣に学習に取り組む姿や先生方の熱心なご指導、そして整備された教育環境を直接拝見することができました。

また、校長先生方と率直な意見交換を行う機会に恵まれまして、大変有意義な時間となりました。

各学校の事前準備によりまして、限られた時間の中でも、効率的な視察を行えたことを深く感謝申し上げます。

一方で、1校当たり65分という時間は、やはり短く感じられました。

以前にもお伝えしております通り、学校現場に足を運び、先生方や子どもたちと向き合う時間を少しでも大切にしたいという思いがございます。

つきましては来年度以降、視察時間の延長も含め、より充実した視察のあり方についてご検討いただけますようお願いいたします。

以上です。

大森学校教育課長

各校への視察時間につきまして、十分な視察や協議に係る時間が確保できず、申し訳ありません。

例えば、各校の視察時間を10分程度延ばすことも考えましたが、そうなりますと、午前中のうちに3校視察することが難しくなり、午前中から午後に跨ぐこととなりますことから、昼食、給食をどうするかといった問題が出てきます。

また、視察の日数について、もう半日時間を確保するなど、教育委員の皆様や学校現場の意見を聞きながら、来年度の実施に向けて調整させていただきたいと思います。

松田教育長

その他いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、原案のとおり確認いたしました。

【原案のとおり確認】

(教育委員会確認)

松田教育長

続きまして、

第12号 令和8年度全国学力・学習状況調査の甲府市における調査結果のポイントについて資料に基づきまして、大森学校教育課長から説明をお願いします。

(大森学校教育課長から資料に沿って説明)

松田教育長

説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。

ご意見、ご質問はありますでしょうか。

岩下委員

調査結果のポイントに関しまして、質問と意見を述べさせていただきます。

今回の全国学力・学習状況調査の集計結果を拝見いたしまして、全体として、数値は若干下回るものの、全国平均と概ね同等であると受け止めております。

これまでの甲府スタイルをはじめとする各学校の地道な取組の成果が着実に表れているものと考えています。

一方で、23ページの集計を見ますと、小学校算数における山梨県の平均正答率が53%、全国平均を3.4ポイント下回っている点が気にかかりました。

本市は、県平均と同等以上を維持しているとのことですが、県庁所在地である甲府市としては、県内での比較に留まらず、常に全国水準を意識した評価と検証を行っていくべきと考えています。

今回の資料は、小中学校の教科ごとに本市の傾向と課題、そして改善策が大変丁寧にまとめられておりまして、非常に価値のあるものだと感じています。

大切なのは、これをいかに学校現場の指導に還元できるか、ということだと思います。

そこで、現場の先生方への周知や課題の共有、そして指導力向上のための研修などを、今後どのように展開していくのか、具体的な方針をお聞かせください。

その上で先ほど申し上げた、小学校算数の学力向上に向けて、特に次の2つの視点を重視していただきたいと考えています。

1つ目は、既習事項を基盤とした課題解決力の育成です。

子どもたちが新しい課題に直面した際、これまでの学びを振り返って、既習事項を拠り所として解決に向かう姿勢が重要です。

これこそが根拠を明確にして、筋道を立てて考える、論理的思考力の大きな大切な土台となります。

2つ目は、日常生活との結び付きを重視した算数教育の展開です。

学びを教科書や教室の中だけに留まらせておくのではなく、日常の具体的な場面から課題を見いだす視点が欠かせません。

また実感を伴う操作活動を通して、長さや重さの感覚、図形や空間の認識を豊かに育むことが求められています。

これらのアプローチによって、子どもたちの「なぜ学ぶのか」という問いが、「学びたい」という意欲へ変わり、生活の中で順序立てて考える、また条件を整理するといった、算数・数学的な見方・考え方を働かせて、課題を解決しようとする態度が育つものと思います。

指導主事の先生方はじめ、現場の先生方には大変なご苦勞があるとは存じますが、本市の教育水準の更なる向上のため、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

大森学校教育課長

まず今回の結果について、どう共有するか、研修についてお話がありましたけれども、まず今回の結果につきましては、次の10月の定例校長会にて、本資料を基に学力向上専門員が、分析結果と授業改善につきまして解説を行うこととなっております。

また、研修につきましては、今後、2月に各校の担当者を集めた学力向上交流会を開催し、大学教授による講演や、本市の学力向上推進校であります北西中学校の取組や成果を発表してもらうこととなっております。

さらに、本市の確かな学力向上推進委員会で作成しております、甲府スタイルの授業実践事例集というものがあるわけですが、只今、今年度版を作成しております、この作成後は、事例集を各校に配付しまして、授業改善の一助としていただく予定でございます。

また先ほどのご意見で、小学校算数のお話でしたが、昨年度より若干、国との比較で下回ったところであり、市教委としても中学校の数学とも関連があるなど、課題として捉えておりまして、この点につきましては、学校教育課の学力向上専門員が学校訪問をしております。そこで単なる算数の授業への指導助言に留まらず、師範授業を現場の先生方に見せていただいているところであります。実際に学力向上専門員自らがモデルとなって、若い先生たちに対して授業の改善のポイントを実践して見せているところであり、こういったことを通じまして授業改善に取り組んでいる状況であります。

今後こうした学校へのアドバイスを丁寧に行っていくことで、小学校に限らず、中学校においても、甲府スタイルの授業の実現に向け、推進していきたいと思っております。

岩下委員

ありがとうございます。ぜひよろしくお願いします。

松田教育長

その他いかがでしょうか。

末木職務代理者

調査結果によりますと、文章読解や情報の整理の部分に課題があると思われますので、学校においても、児童生徒が新聞を読んだり、本を読むことを進めてもらえればと思います。

また、家に本が多くあることや新聞を読んでいることが、高い正答率につながっていると考えられることから、図書館の利用、あるいは新聞に触れる機会を増やしてもらいたいと思います。

もう1点、数学や国語の教科に対して、学習意欲が湧かないといった回答が見受けられました。AIが世に出回っている近年においては、わからなくても、すぐに調べれば答えが出ることから、学習する意義について改めて考えていく必要があると思います。

学ぶ意義につきまして、何か学校の中でも取り組んでもらえればありがたいです。

大森学校教育課長

読解力につきましては、読書活動の環境づくりが重要と捉えております。

各校では図書館利用計画や図書館の指導計画を策定しておりまして、教育課程の中において読書活動を推進しているところであります。

具体的には、朝の読書や本の読み聞かせを行っており、学校によっては図書の時間を設けるなど、定期的に図書館で読書する時間をつくっている状況であります。

また、近年では一人一台端末にて、市立図書館の電子版が閲覧できるようになっておりますことから、紙の本のみならず電子媒体を通じた本に触れる機会が設けられているかと思っております。

算数・数学であっても、問題を読んで何が求められているか理解しなければならないなど、考えて判断し、分析して自ら答えを導き出すことが将来求められますので、そういった判断

力ですとか、理論的思考などが、今後読書活動、読解力に繋がっていくと考えておりますので、引き続き指導してまいりたいと思っております。

また、好きではない、得意でないといった回答が多かった結果について、私としてもちょっと残念でありましたけども、まさに甲府スタイルの中には、動き出したくなる課題というのが項目の中にありまして、日常生活と関連付けた内容、具体的に申しますと、小学校3年生の算数になりますが、余りのある割り算の単元で、ただ計算だけをするのではなく、お昼休みにどんなレクをするのか、4つレクの項目があるうち、何週目に何のレクが当たるのか考える問いに対して、4の倍数であれば簡単ですが、そうではない数字、週のときはどんなレクに当たるのか、といった日常生活とリンクさせて考えさせる授業が望ましいと思っております。

こうした授業をできる限り取り入れる中で、算数・数学が好きになる子どもが増えれば良いと思っております。

松田教育長

その他いかがでしょうか。

上原委員

先ほどのお話にもありましたように日常生活の具体的な場面というのは、家庭生活の中にも多いにあり、食事の時などの親子の対話の中で子どもに促すこと、自然に学びの機会を促すことが、とても重要だと感じております。

学校生活では先生方やクラスの中での関わりがあると思いますが、家庭でもそういうことが意識できるよう、先生方から発信していただけるとありがたいと思います。

大森学校教育課長

先ほどの調査結果の中で、家庭ではスマホの使用時間が長く、学習時間が減ってきている状況がありますので、こういった家庭での過ごし方や学習については、市教委の方で、新入生向けに家庭学習の手引きを作成して、小学校1年生、中学校1年生に配付しているところであります。また、調査結果につきましても、学校ごとにとりまとめ、保護者の皆様にお知らせするのですが、その中に、家庭学習における子どもとの関わりについての内容を盛り込んでもらいながら、保護者の方に向けて発信していければと思っております。

松田教育長

その他いかがでしょうか。

岩下委員

質問調査の結果について、何点か感想と意見を申し上げたいと思います。

まず子どもたちの意識や環境について、成果として大変すばらしいと感じたのは、子どもたちが自己肯定感や幸福感を持って学校生活を送ることができている点であります。

先ほど説明にもありましたが、私も注目したところで、資料40ページの＜小学校＞の上から2つ目の円印の「自分には、よいところがあると思いますか」や「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という問いに対して、9割前後、9割以上が肯

定的と回答しています。その下の「学校に行くのは楽しいと思いますか」も85%以上の児童が肯定的であると回答しております。

さらに、38ページの6番、7番、13番といった、家族との会話や先生への相談に関する設問を見ましても、全国平均と比べて本市の高ポイントが目立ちます。

本市の子どもたちが、親や家族、先生方に大切にされ、楽しく前向きに生活できていることが明確に見て取れました。これは一朝一夕にできることではなく、関わる方々が子どもたちを取り巻くすばらしい環境を築いてこられた成果であると深く敬意を表します。

また、地域のつながりについても、良い傾向が見られました。

33番、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という設問からは、日頃からの温かい関係性が伝わってまいります。今後も大切に引き継いでいきたい、大変よい傾向だと思います。

次にICT機器の活用についてです。

こちら先ほど説明がありましたけれども、質問36番の各項目、また48番の結果からは、1人1台端末の導入と効果的な活用が進んで、ICTが既に日常の文房具として定着している様子が伺えました。それに伴い、子どもたち自身の活用に対する自信が深まって、学習効果も確実に表れてきていると実感しました。

一方で今後の課題として見過ごせないのが、スマートフォン等の長時間利用と生活習慣、学習への影響です。

小中学校ともに質問4番のSNSや動画視聴、ゲームなどの利用時間の結果は、非常に気になります。

40ページの方にもありましたけれども、学校外で1日2時間以上勉強している割合が、小中学校とも全国より低い一方で、小学校で1日1時間以上、中学校で2時間以上、SNSや動画を見ている割合は全国を上回っております。

さらに60ページ、上段のグラフを見ますと、平日、スマートフォン等に触れる時間が長い児童生徒ほど、教科の正答率が低い傾向にあるという厳しい現実も示されております。長時間のスマホ利用は、夜型の生活や睡眠不足、朝食の欠食といった基本的な生活習慣の乱れに直結します。そしてそれが家庭学習の時間を圧迫する主因になっていると考えられます。

こうした課題は学校だけの努力で解決できるものではありません。

家庭や地域を巻き込んだ、社会全体でのアプローチが必要だと思います。

41ページ、42ページにも示されておりますけれども、小中学校とも、家庭学習のあり方や時間の確保、そしてスマートフォン等の利用の学習への影響について、家庭、地域とも連携しながら、教育委員会としても現場をしっかりと支え、実効性のある具体的な対策の検討を進めていただきたいと思います。

以上です。

大森学校教育課長

「学校に行くのが楽しい」というところになりますが、令和7年度と比べて数値が落ちていますが、概ね良好な傾向と捉えております。

ただ一方で、中学校の方では、国語や数学が得意ではない、好きではないという生徒が多い状況にあります。中学校では「学校が楽しい」の中に、だいたく教科の出来不出来が影響してく

と考えておりますことから、小学校で概ね良好だったんですけど、中学校についてはもう少し改善していく必要があります、先ほどの日常生活に関連付けた授業や、動き出したくなる課題の取組などを研究していきたいと思っております。

それからSNSや動画視聴の関係になりますが、動画の視聴やSNSの使用が多いことが結果にも出ていることが心配されています。

市教委としては、非常に重く受け止めておりまして、特にこちらにはデータを記載していませんが、中学校で平日、1日4時間以上使用する生徒が31.7%いまして、全国平均よりも多く、このことが学習に影響があると考えておりますことから、学校にはその状況を細かく伝え、保護者への啓発を行ってもらうとともに、生徒の学習意欲を高める授業づくりについて指導してまいりたいと思っております。

松田教育長

その他いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、原案のとおり確認いたしました。

【原案のとおり確認】

(教育委員会確認)

3 その他

松田教育長

その他になりますが、何かございますか。

4 閉会

松田教育長

以上をもちまして、9月定例教育委員会を閉会します。